

大林宣彦監督作品『ふたり』採録シナリオ (二)

尾道市立大学日本文学科柴研究室内 大林宣彦映画研究会

(柴市郎・野口智世・福圓岬・今吉勇貴・國本芙花)

荒木鈴菜・戎ひなた・志茂あおい・多田琴音)

『ふたり』採録シナリオ (0h25m10s ~ 0h47m17s)

コンサートホールの遠景 [0h25m11s]	(火花が上がっている。)
	(雷が響いている。)
コンサートホール・客席(夜) [0h25m21s]	(会場一階をゆっくりと歩く智也。)
	(歩く智也のロングショット。)
	(白い大きな階段上で、合唱団が《第九》を歌っている。)
	(二階にいる実加と真子の後ろ姿。)
実加	もう勘弁してよ。
真子	許さないよ！

真子	(階段の脇で話す実加と真子。)
	ルール違反だよ、そんなおしゃれして来るなら
	そう言ってくれば、私だって母ちゃんの緋色の
	総絞りの訪問着着込んでバリっとしてきたの
	に！
	ごめんなさい。親友を裏切ったりして、悪い子
	だね私。
	でもね、仕方がなかったんだよ。お姉ちゃんが
	《第九》行くなら絶対黒のコレって、言うもん
	だからさあ。
	もー、いつもそうやって私あんたの乙女チック
	に惑わされちゃうんだ。馬鹿な私。
	あんがと。
実加	
真子	

真子	でもさ。それ着るとほんと、千津子姉ちゃんそっくりだね。
実加	ふん。中身は全然って言いたいわけ。
真子	またそうやっていじける。可愛くないよ！ (大きな雷鳴のような音。)
実加	あ、もうひとつあったんだ、約束。 合唱が始まったからね、売店でホットチョココレト買った。
真子	(階段を上っていく実加。) 呆れた〜！ (真子、実加の後を追って階段を上る。)
コンサートホール・CF [0h27m13s]	(実加と真子が階段を上っていった直後、そこに智也が現れる。)
実加	(実加を待っている真子。) お待ちどおさま。はい、お詫びの印。 (実加は買ってきたホットチョココレトを真子に渡す。)
真子	ありがとう。 (二人そろって飲む。)
真子	ああ、おいしい。そういえば去年は千津子お姉ちゃん買ってきてくれたんだ。
実加	そうだった。寒い中でふたりで飲んだねえ。ふあふああって、湯気がほっぺにあっただかった。
真子	そんな話してたらトイレ行きたくなっちゃった。ちよつと持ってた。

智也	君。 (実加は振り向く。)
智也	(真子は実加にカップを預けて立ち去る。) (実加の右肩に、智也が手を置く。)
智也	(智也のアップ。)
智也	——ごめんなさい。人違いでした。
智也	(実加、顔の向きを元にもどす。)
智也	(智也のアップ。かけていた眼鏡を外す。)
智也	もしかして……妹さん？ (実加、ふたたび智也に顔を向ける。)
智也	(智也のアップ。)
智也	実加さん、ですね？ (実加、驚いて智也を見つめるが、すぐに目を伏せながら頷く。)
智也	(智也のアップ。)
智也	やっぱりそうだ！ ここで、こうやってあなたのことばかり話してた。千津子さん。 (実加、伏せていた目を智也に向ける。)
智也	(向かい合う実加と智也。)
智也	それから、ホットチョココレトが冷たくなるって、ふいに慌てて駆けていった。今年も一緒？
実加	今年は——来ていません。
智也	そう……僕のは、何か？ (戻ってきた真子がガラスに映る。)
実加	いえ……。 (実加が戻ってきた真子を見つめる。)

智也	(智也もそれに気づく。) それじゃあ、お姉さんによろしく。さようなら。 (智也、真子のほうに会釈をして立ち去る。)
真子	(真子、フレームイン) ふん。そういうことだったんだ。ずるいぞ！ 実加。
実加	違うよ……。私じゃないよ……。お姉ちゃん……。 (実加、真子に二つのカップを渡す。)
実加	(智也の後を追う実加。) 待って！
コンサートホール外 [0h29m28s]	
実加	(真子を残したまま、実加、智也を追って ホールから走り出てくる。)
実加	待って。 (実加、智也に駆け寄ってくる。)
実加	待って。——待ってください。 (駆け寄る実加の横顔のアップ。)
実加	待って。 (実加に気づいた智也はその場で振り返り、 実加を見つめる。)
智也	はい。 (客船を背後に佇む実加。夜空には花火が 激しく明滅する。)
実加	姉はもう来ません。 (真剣な表情で実加を見つめる智也。)

実加	(実加、若干よろめくように数歩、後ずさりする。)
実加	でも姉は今ここにいます。 (じつと実加を見つめる智也。)
実加	(両手を広げながら、さらに実加は後ずさりをする。)
実加	見てください。 (コートと鞆を持っている両手を前で組む。 実加のフルショットになる。)
実加	今あなたを見ています。 (変わらぬ表情で実加を見つめる智也。)
実加	(花火を背に佇む実加。)
実加	あたしの目を通して……。
実加	(実加の体が倒れかかり、智也、思わず駆け寄って、実加の身体を支える。)
実加	(両手のホットチョコレートをこぼさないように歩いてくる真子。ふと顔をあげ実加と智也に気づく。)
実加	(智也は氣を失った実加を抱きあげる。)
実加	(水面に揺らめいている千津子の影。 テイルトアップし、欄干にもたれ智也と実加の様子を見つめる千津子のロングショット。音楽と花火の音が交錯する。)
喫茶店 [0h30m26s]	
実加	(窓隅の席に実加、真子、智也。外は雨が音が聞こえるほど降っている。)

真子	もう大丈夫です。このこ、もともと貧血気味ですから。年中なんですよこんなこと。 (笑みを湛えて実加を見つめる真子。)
実加	ごめんなさい。ご迷惑をおかけしました。 (微笑む智也のアップ。)
真子	神永さんたらねえ、実加のことー
真子	ーさつと抱き上げて、そりゃあかっこよかつたんだから。知らないでしょ。 (ウエイトレスが近づき水を置く。)
実加	知ってたら抱かれてないわよばか。 なに赤くなってるんのよ、ばか。 (微笑む智也のアップ。)
真子	コーヒー。 (隣りあわせに座っている実加と真子。)
智也	ウエイトレス ご注文は？ (ウエイトレスに)コーヒー。
実加	(実加をにこやかに見つめる智也。)
真子	(名刺を読み上げつつ)神永智也、 (智也の名刺とそれを持つ真子の手のクローズアップ。)
真子	広島工科大学船舶工学科……。
真子	(顔をあげて目をみはる真子のアップ。)
真子	すごいですね。何年生ですか？ (智也のアップ。)

智也	三年生です。 (実加と真子が並んで座っている。)
真子	私たち尾道女子中学校の二年生です。 私は長谷部真子。この子は北尾実加。 (笑顔の智也のアップ。)
智也	はい。よく知ってます実加さんのことは。小説書いてるんですー
智也	(驚いた表情の実加。)
智也	ーよね？
実加	おねえちゃんたら、 そう、 (智也のアップ。)
智也	初めて会ったのにね、よほど仲のいい姉妹なん でー
智也	(実加のアップ。)
智也	ー羨ましかった。 (智也のアップ。)
智也	ぼくはひとりっこですから。 (向かい合って座る智也と実加・真子。真子と智也同時に)
真子	はじめて……。
智也	同級生の……。
智也	(顔を見合わせ言いよどむ。)
智也	あー……いや。 (再び同時に)
真子	ほら……。

智也	そのせい……。
真子	(真子、きわり悪そうに自分の襟元を触る。)
智也	あなたが、差、つけるから……。
	その制服なら、よく知ってるもんですから。
実加	(実加のアップ。)
	姉とは……それだけですか。
智也	(智也のアップ。)
	来年の第九も、ここで聞きましようって……合唱が始まったらここで会いましょうって、そう約束してたんです。
実加	(悲しげな表情の実加のアップ。)
	十月二十七日……姉は死にました。
	(智也の表情から笑みが消える。)
	(雨滴が流れ落ちる窓の外に立ったままの千津子とその様子をじっと見つめている。その千津子にゆっくりとドリーイン。)
北尾家・表(過去) [0h32m27s]	
千津子	(扉が開き、千津子が現れる。)
	なにしてんの、早くしないと遅刻よお。
	(奥から眠そうな顔で上着を着ながら出てくる実加。治子もお弁当を持ちうしろからついてくる。)
治子	また庭に脱ぎっぱなしなんでしよう靴……。
	(実加は、靴をとり家に中に戻る。千津子と治子は顔を見合わせる。千津子、治子からお弁当を受け取る。)

千津子	(実加、ふらふらと靴のかかとを踏んだまま庭伝いに玄関先に向かう。玄関の前で靴を履きなおす。)
千津子	ほんとにもう……その寝癖なんかならないの。
実加	うーん、少し切らなくちゃね。
千津子	切ってばっかりいと坊主になるよ。はい、お弁当。
	(千津子、実加にお弁当を差し出す。)
	(笑顔の千津子と治子のアップ。)
	(片手でお弁当を受け取る実加。)
千津子	(千津子と治子のアップ。)
	ちゃんと残さないで食べんのよ、あんた低血圧なんだからー
千津子	(お弁当を持ち、ぼうっとした表情の実加。)
	ー自分で気を付けないと。
千津子	(千津子と治子のアップ。治子、うなずく。)
実加	(お弁当を持ちながら笑う実加。)
	ふふ……おねえちゃん母親みたい。
	(治子と千津子微笑みを交わし、治子は千津子の右肩に手をまわす。)
千津子	忘れ物ないよね。
実加	(うなずきつつ) うん。
	(肩に手を回したまま立つ千津子と治子。うなずく治子。)
	(玄関の前に立つ千津子と治子の後ろ姿。ふたりの奥からお弁当を手にした実加が歩いてくる。)

千津子	(数えながら) 洗剤、ティッシュペーパー、牛乳、レモン、(千津子と治子の間を黙って通りぬける実加。) 帰りに買ってくるからね。
治子	お願いね。
千津子	うん。
千津子	(歩きつつ振り返りながら) あ、明日お父さん帰ってくるから。
治子	はい。
治子	(実加、玄関前から歩き出す千津子を後ろからぶつかりながら追い越す。それを見て微笑む千津子。)
千津子	(家の前の道路に出かけて急に立ち止まり返る。)
千津子	千津子、先に行く実加は千津子のほうを振り返る。)
千津子	(家の方を見つめ、微笑みながら) お母さん新聞は、後で。
治子	(手を振りながら) 行ってきます!
千津子	いつてらっしゃい。
千津子	(階段を駆け下りながら) いい。
実加	うん。(小さな声で) 行ってきまーす……。
治子	(千津子、実加を追い越し弾むように階段を駆け下りていく。実加、後を追って歩く。)
治子	(微笑みながら娘たちを見送ってから、家の中へ入る治子。)
家の近所の路地 [0h3m45s]	

千津子	(実加、電柱の横をのぼりおりして千津子の横へ。千津子と実加が顔を見合わせて微笑む。前を歩く千津子の足元を見つめる実加。)
千津子	(千津子の足元のアップ。白いソックスに赤い糸がついている。)
実加	(お弁当とかばんを手に歩く実加。)
実加	お姉ちゃん。
実加	(千津子、不思議そうに実加の方をゆっくり振り返り、立ち止まる。)
実加	(立ち止まる実加。)
実加	血……。
実加	(実加、千津子に駆け寄り、千津子の足元にしゃがんで右足を確認する。ソックスについた糸くずを指先でつまみ取る。)
実加	(糸くずを手にはち上がる実加。)
実加	なあんだ、糸くずだ。
実加	(実加、糸くずを千津子に渡す。千津子、受け取った糸くずを見つめ、ポケットへしまい実加の後を追う。)
同・近くの坂道 [0h3m24s]	
千津子	(坂道を下りる実加と千津子の後姿。二人が歩くすぐそばに木材を載せたトラックが止まっている。実加はトラックをみつめる。)
千津子	(トラックを見つめる実加と早足の千津子。)
千津子	はやく。遅刻。

千津子	(急ぎ足になる二人。)
実加	ごめん。
千津子	ん？
千津子	(立ち止まって) ちょっと先行ってて。
実加	どうしたの。
千津子	うん、忘れ物。
実加	(千津子、来た道を戻ろうとする。)
千津子	(笑いながら) お姉ちゃんか？ あたしみたい。
実加	(振り返りながら) ほんどだね。
千津子	かばんなかじゃない？ 何忘れたの。
実加	(首を振りながら) そんなんじゃないの。じゃあ……ごめんね。
千津子	(千津子、坂を駆け上がっていく。)
実加	(坂を上っていく千津子を見つめる実加のアップ。)
千津子	(坂を駆け上がっていく千津子の後姿。ト ラック最後部にかけられた缶が揺れてい る。)
千津子	(揺れる缶のアップ。)
千津子	(そのまま缶は地面に落ち、音を立てる。)
千津子	(地面にぶつかって跳ねる缶。)
千津子	(缶が落ちた音に驚く実加。)
千津子	(振り返る千津子のアップ。)
千津子	(缶は坂の上から実加めがけて転がってい く。立ちすくむ実加。)
千津子	(千津子、驚いた様子で体ごと振り返る。)

千津子	(実加に駆け寄りながら) 危ないよ実加。
千津子	(実加の方へと転がり続ける缶。)
千津子	(千津子は実加へと慌てて駆け寄る。)
千津子	(飛びあがって缶をよける実加のアップ。)
実加	ひゃっ。
千津子	(飛びあがる実加の足元。)
千津子	(千津子のアップ。)
実加	実加！
千津子	(転がる缶を追いかける実加の後姿。)
千津子	(木材が滑り落ちる音と、それを見る千津子のアップ。)
千津子	(トラックの一番上に積み重ねられていた木材が 千津子目がけて滑り落ちてくる。)
千津子	(驚く千津子のアップ。)
千津子	(木材をとっさに飛び退ける千津子。)
千津子	(転がる缶を追う実加の足元。)
千津子	(次々と落ちてくる木材を避ける千津子の 後ろ姿。)
千津子	(慌てた表情で木材を避ける千津子。)
千津子	(千津子の足元すれすれに落ちる木材のアップ。)
千津子	(トラックから滑り落ちる木材と千津子の 俯瞰ショット。)
千津子	(缶を追いかける実加の後ろ姿。)
千津子	(次々と落ちてくる木材を避ける千津子。)
千津子	(逃げまどう千津子の横顔。ミディアム ショット。)

	(同じく千津子の横顔。別角度からのバストショット。)
	(紅葉の木のの上に落ちてくる木材。)
	(千津子のの上に木材が覆いかぶさる。)
	(紅葉の木のの上に落ちてくる木材。)
	(上を見上げる千津子。)
	(紅葉の木のの上に落ちてくる木材。)
	(トラックのタイヤのアップ。タイヤを押えていたブロックが崩れ、トラックが動き出す。)
	(トラックの異変に気がついた運転手。)
	(坂を転がり、千津子めがけて動き出すトラック。)
	(トラックの木材が千津子めがけて動いていく。)
	(トラックに積んである一番上の木材が滑り落ちる。)
	(動けない千津子と、それに迫るトラック。)
	(落ちる木材。)
	(動けない千津子と、さらに迫るトラック。)
	(落ちる木材のアップ。)
	(動けない千津子。トラックと塀の間で身動きが取れず、苦しんでいる。)
	(千津子を見てハッとするトラックの運転手。)
	(坂を転がり、止まる缶のアップ。)

	(缶が止まったのを見つめ、嬉しそうに笑う実加。ゆっくりと缶を拾う。)
	(缶を拾う実加の後姿。振り返り、坂を登る。)
実加	(小走りで)お姉ちゃんバケツ。
実加	(姉を探す実加のアップ。)
実加	お姉ちゃん？
	(千津子のもとに慌てて駆け寄る運転手。)
	(不安げな実加のアップ。)
	(バケツを持ったまま、ゆっくりと坂を登る実加の後姿。運転手がタイヤを押し返そうとするが動かない。)
千津子	実加。実加。……実加！
	(実加は千津子の声のする方へそろそろ近づいていく。実加、丸太につまずきそうになりながら、姉の手に気がつく。)
実加	(缶を投げ捨て丸太を飛び越えて)お姉ちゃん！
	(慌てて千津子のもとへ駆け寄る実加。)
実加	(木材の隙間から見える実加。)
実加	お姉ちゃん、どうしたの、こんな、
	(タイヤを押し戻そうとする運転手を見る実加。)
実加	こんなこと！(涙ぐみながら)お姉ちゃん！
	(タイヤを押し、うなる運転手のアップ。)
実加	(木材の隙間から見える実加。)
千津子	お母さん呼んでくる。待って！

千津子	(トトラックに潰される千津子。)
千津子	(苦しげに手を差し出しつつ) いかないで、一 緒に居て!
実加	(実加、お弁当を投げ捨て差し出された手 を握る。)
実加	お姉ちゃん、すぐ助けに来るから。
千津子	(苦しそうにしながら実加を見つめる千津 子のアップ。)
千津子	(首を振りながら) 私はもうすぐ死ぬわ。
千津子	(首を振りながらおろおろする実加。)
千津子	(苦しげな千津子のアップ。)
千津子	こんなの簡単に持ち上がらない。
実加	(おろおろしながら千津子を見つめる実 加。)
実加	そんなこと……。
千津子	(苦しそうにしながら実加を見つめる千津 子のアップ。)
千津子	聞いて、私が居なくなったら、お母さんしばら く立ち直れないわ、あなたがしつかりしなきゃ だめ、わかった……?
千津子	(おろおろする実加。苦しそうな千津子の 息遣いが聞こえる。)
千津子	(苦しげな千津子のアップ。)
千津子	あなたはね、わたしなんかより、ずつとずつと 才能のある子なのよ。(微笑みながら) 本当よ。
千津子	(千津子をみつめる実加。)
千津子	私はただ器用で目立つだけ……でもあなたは、

千津子	(実加を見つめる千津子。)
千津子	底の方で光るもの持ってる。
実加	(千津子を見つめ泣く実加。)
実加	(首を横に振りながら) お姉ちゃん……。
千津子	(実加を見つめ、苦しげな表情の千津子。)
千津子	(振り絞るような声で) 自信を持つの! …… 自分の人生なのよ……あなたの生き方に自信を 持つの! 私、いつもみてるから! ……あんな たのこと……あなたのそばに居るから!
実加	(千津子を見つめる実加。)
実加	(首を振りながら) 死んじやダメお姉ちゃん。 そんなの、ひどいよ。(すすり泣きながら) あ たしなんてお姉ちゃんが居ないと。
千津子	(ぎゅつと千津子の手を握りしめている実 加。)
千津子	よかった……一度このことをね……あなたに話 したかった……。
千津子	(実加、いやいやというように首を振る。)
千津子	(涙を流す千津子のアップ。)
千津子	ずつと昔……こんなことあったような気がするね ……。あなたの小説……もつと読みたかったな ……。
実加	(泣きながら首を振る実加。)
実加	(首を振り) お姉ちゃん……。
千津子	(苦しむ千津子のアップ。圧迫が強まり 「うっ」と声を発する。)
千津子	(力む運転手のアップ。)

実加	<p>（運転手は耐え切れず、「ああつ」と声を発し倒れる。）</p> <p>（トラックの勢いで倒れる実加のアップ。）</p> <p>きやっ。</p> <p>（トラックの勢いで倒れる実加。）</p> <p>（倒れて仰向けになった運転手のアップ。）</p> <p>（がくりと力を失なう千津子の腕。そこに紅葉が散りかかる。）</p>
北尾家	<p>千津子の部屋 [0h38m27s]</p> <p>（扉が開き実加が入ってくる。）</p> <p>千津子 おかえりなさい。</p> <p>実加 （パツと顔をあげる）お姉ちゃん。 （実加、持っていたコートを椅子に置く。手を後ろで組み千津子にゆっくり近づぐ。） 今夜はいい夜だった？ うん。</p> <p>（実加、千津子の隣に腰掛ける。） あの人に全部話したよ。お姉ちゃんのこと。</p>
千津子	<p>（並んで座る実加と千津子。）</p> <p>ありがとう。</p> <p>一緒に行けたらよかったね。</p> <p>（千津子、ポケットから事故の時の赤い糸くずを取り出してまさぐりながら。） （軽く笑い）どじだったねえ私も。ほんとにあんなみたいだよ。あの日の私。</p> <p>（実加、千津子の持っていた糸くずを持ち見つめる。）</p>

実加	<p>そんな日も、あるよね。</p> <p>（実加、千津子の手から糸くずを取り、机の上の小物入れにしまう。）</p>
浄土寺	<p>[0h39m55s]</p> <p>（雨が降るなか、タクシーがやってきてピアノの発表会会場の前で止まる。）</p> <p>よかったんですか。会社のお仕事。日曜日だよ。かまうもんか。どうせクルージングというより、後のカラオケ大会がお目当てなんだから。</p> <p>（雄一と治子がタクシーから降り、同じ傘に入る。）</p> <p>夜ちよつと顔を出しておきます。</p> <p>私ならよかったですよ。こんなところへ来ると千津子を思い出すから嫌なんです。</p> <p>ともかく、実加が頑張ったんだ。晴れ姿を見てやらかなきゃ。</p> <p>（会場の入り口へ河本ピアノ教室 春の発表会への看板。二人は中へ入っていく。）</p> <p>あの子、うまくできるかしらねえ。</p>
同・舞台	<p>[0h40m32s]</p> <p>（ピアノを弾く竜一郎。小学生とは思われないほどの華麗な指さばき。） （竜一郎を見守るピアノの先生とピアノを弾く竜一郎。）</p>
同・控室	<p>[0h40m53s]</p> <p>（実加、楽譜をピアノを弾くようにたたく。）</p>
治子	
雄一	
治子	
雄一	

千津子	落ち着いて。 (実加、声のする方を見上げほつとした表情を浮かべる。)
実加	お姉ちゃん。
千津子	(千津子、実加の傍らに座りつつ) いつもあなたの傍にいるからって約束してあげたでしょ。なんで私があんなこの次に出なきゃいけないわけ。
実加	あんたはあんたのベストを尽くせばいいのよ。恥かくのはお姉ちゃんじゃないんだからね。あたしもう帰りたい。
千津子	(実加、ずるずると障子にもたれる。)
千津子	何言ってるんの、自分でここまで来たくせに。
実加	(千津子、演奏する竜一郎のほうを見る。) (竜一郎の方へ振り返りながら) 無謀、… 浅薄、… 盲進、粗忽…… はあ…… 浅はか。 (千津子、くすりと笑うような仕草。)
同・舞台 [0h41m38s]	(竜一郎が演奏を終え、お辞儀をする。席の一番前に居た竜一郎の祖父が「ブラボー」と何度も叫び、「アンコール」と一人繰り返す。)
	(お辞儀を繰り返す竜一郎。竜一郎は興奮している祖父をなだめるようなジェスチャーを繰り返す。)

	(観客席のほうに雄一と治子が着席する。その前の席では真子が隣の女性に耳打ちしている。)
同・控室から舞台 [0h41m49s]	(竜一郎が祖父とともに舞台から去るのが見える。千津子、立ち上がる。)
千津子	ほら、あなたの番よ。 (実加、おずおずと立ち上がる。)
司会	(実加、しおしおと舞台へ歩く。途中竜一郎とすれ違う。)
千津子	では、次は北尾実加さん。当河本ピアノ教室で、背筋伸ばして。
司会	一番の秀才だった北尾千津子さんの妹さんです。二年前、
千津子	堂々と歩くのよ。
同・舞台 [0h42m02s]	(ピアノの前で司会が紹介文を読み上げている。実加、障子の奥から姿を現す。)
司会	姉の千津子さんが華麗に演奏された同じ曲、 (実加、ぐらりとよるめき鍵盤に手をつく。)
ピアノの先生	大丈夫？ (会場がざわつく。)
同・客席 [0h42m05s]	(治子は目をそらす。)
治子	だから、私、嫌だって言ったんですよ。 (雄一は何も言わず舞台に視線を戻す。)

同・舞台 [0h42m13s]	(実加、すこしふらついている。)
司会	今年は、妹さんの実加さんがシューマンのノベルツテを演奏します。ご清聴ください。
同・客席 [0h42m20s]	(笑顔で拍手する真子。)
	(それに続き雄一も拍手をするが治子はうつむいたまま動かない。)
	(笑顔で拍手する真子。それにつられて観客も拍手を始める。)
	(うつむく治子を気にしつつ拍手する雄一。)
	(拍手をする観客たち。)
同・舞台 [0h42m27s]	(実加、お辞儀をして椅子に着席する。)
	(ピアノの先生のアップ。)
ピアノの先生	じゃ、北尾さん
	(緊張した面持ちの実加のアップ。)
実加	はい。
	(実加、キョロキョロと目を落とす。)
	(緊張のあまり鍵盤が二重に見えてくる。)
	(微笑んで実加を見つめる千津子。)
千津子	落ち着いて。
	(うつむく実加のアップ。)
	(微笑んで実加を見つめる千津子。)
千津子	深呼吸して。

	(大きく息を吸い込む実加のアップ。)
千津子	(微笑んで実加を見つめる千津子。)
	はい、目を開けて。
	(実加、目を開ける。)
千津子	(実加に語りかける千津子。)
	(鍵盤に目を落とす実加。)
千津子	最初の和音。
	(鍵盤に語りかける千津子。)
千津子	(実加に語りかける千津子。)
	(鍵盤を見つめる実加のアップ。)
千津子	フォルテ。
	(鍵盤を見つめる実加のアップ。)
千津子	(実加に語りかける千津子。)
	……力強く。
	(大きく息を吸って鍵盤に挑みかからんとする実加のアップ。)
	(強く鍵盤を叩く実加の手。音楽に合わせてアップになる実加の手。)
	(真剣な表情でピアノを弾く実加のアップ。)
	(見守っている千津子と懸命にピアノを弾く実加の姿。後にピアノの先生も見守っている。)
	(実加を見つめる千津子のアップ。)
	(鍵盤を叩く実加の手のアップ。)
	(真剣な表情の実加のアップ。情感豊かに演奏する実加のアップ。)
	(実加を見守る千津子。)
同・客席 [0h43m15s]	

	(実加を見つめる雄一とうつむく治子。)
同・舞台 [0h43m19s]	(ピアノを弾く実加の姿。)
	(雄一と治子の後姿。雄一、治子の方に顔を向ける。)
	(真剣な表情で実加を見つめる千津子と、懸命にピアノを弾く実加。)
実加	あ、飛ばしちゃった。
千津子	そのままいっちゃいなさい。どうせ知らないんだからこの曲。ほとんどの人。
実加	(笑いながら) うん。
	(実加、思い直して演奏を続ける。)
	(実加を満足気に見守る千津子のアップ。)
同・客席 [0h43m49s]	
	(真子の隣に腰を下ろす万里子。)
真子	前野さん…めずらしいあなたが来るなんて。
万里子	ひっぱってこられたのよ。大学生のいここに。
	(懸命にピアノを弾く実加。)
	(実加を見つめる万里子。)
万里子	なかなかやるんだ。北尾さん。
	(懸命にピアノを弾く実加。)
	(並んで座る雄一と治子。雄一、治子を見、その後、実加に視線を戻す。)
	(情感豊かにピアノを弾く実加のアップ。)
真子	(並んで座る真子と万里子。)
	で、あなたのいとこさんって？

	万里子
	(外を見つめながら) あそこにつたつたってるわ。できそこないの王子さまよ。
	(真子、外を見つめる。)
	(外には傘を持ち、もう片方で花束を持って立っている智也。実加の演奏を聴いている。)
	(目を潤ませている千津子のアップ。)
	(雨の中に佇む智也の正面のアップ。)
	(千津子の頬から涙がしたり落ちる。)
	(雨の中の智也。)
	(涙を流す千津子のアップ。)
同・舞台 [0h45m17s]	
	(ピアノを弾く実加の後姿。千津子の姿はない。)
	(実加を見つめる智也の横顔。)
	(智也の正面アップ。)
	(切なげな表情の千津子のアップ。)
	(ピアノを弾く実加の手のアップ。真剣な表情の実加。)
同・客席 [0h45m41s]	
	(顔をあげ実加の方を見る治子。)
同・舞台 [0h46m01s]	
	(ピアノを弾く実加。)
	(実加を見つめる観客の後姿。)
同・客席 [0h46m09s]	
	(最後の和音を弾き終え、忘我の実加。)

	(嬉しそうに拍手を送る治子。拍手しながら治子の様子を見て微笑む雄一。笑顔で大きく拍手する真子。惘然とした表情をして外を見つめる万里子。)
同・庭 [0h46m19s]	(花束を抱え、実加に拍手を送る智也。)
同・舞台 [0h46m22s]	(立ち上がる実加のアップ。) (お辞儀をする実加。) (よろめくように退場する実加。)
同・廊下 [0h46m41s]	(廊下をよろよろと歩く実加。司会が次の発表者の紹介をはじめている。次の発表者とすれ違う実加。庭の方から智也が近寄ってくるのに気が付く。) (実加を見上げて微笑む智也。)
智也	素敵だったよ。 (智也、花束を実加に差し出す。実加、花束を両手で受け取り、何も言わず立ち去る。)
同・庭 [0h47m03s]	(驚いた表情で控え室に駆け込む実加。)
	(去り際に振り返る智也。)
同・客席 [0h47m05s]	(依然、惘然としたままの万里子。つと立ち上がる。)

同・庭 [0h47m16s]	(去ってゆく智也の後姿。)
同・客席 [0h47m16s]	(いぶかしげに智也を見つめる治子と雄一。)
同・廊下 [0h47m17s]	(遠慮する智也の後姿。それを見送る千津子の後姿。切なげな表情で振り返り、立ち去る。)

(以下、続稿)

本稿は「大林宜彦監督作品『ふたり』採録シナリオ（一）」（『尾道文学談話会会報』第七号、二〇一七・二〇）の続稿である。あらたに研究会に加わった荒木、戎、志茂、多田の四名は本稿において校閲作業を担当した。なお、凡例については、前稿「大林宜彦監督作品『ふたり』採録シナリオ（一）」【序および凡例】をご参照されたい。

―しば・いちろう 日本文学科教授―

―のぐち・ともよ

日本文学科二〇一六年度卒業生―

―ふくえん・みさき

日本文学科二〇一六年度卒業生―

―いまよし・ゆうき 日本文学科四年生―

―くにもと・ふうか 日本文学科四年生―

―あらき・すずな 日本文学科二年生―

―えびす・ひなた 日本文学科二年生―

―しも・あおい 日本文学科二年生―

―ただ・ことね 日本文学科二年生―